
君を想った時間

ジェジュン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君を想った時間

【コード】

N0952I

【作者名】

ジエジュン

【あらすじ】

亜夜は旭に告白をします。その返事とわ???

君を想った時間〜第一話〜

2008年 13歳の春 私は君と出会った。
初めはそんなに興味なんてなくて・・・今はそれをとっても後悔している。

君はいつも一生懸命で、優しかった。

なのに私はまったく気付けなかった。どうしてだろう？
でも、あの時 君が優しくしなかったら・・・君の事を好きにならなかったら・・・
今、私は毎日楽しく過ごせていたのかな？

私の名前は「亜夜」今、彼にアピールしてる・・・

「なあ・・・好きな人誰なん？」

「さア・・・??？」

彼の名前は旭。バスケットが大好きで一生懸命で優しいから・・・好きになってしまった。

「誰やと思う??・・・ってか、お前は好きな人誰なん??」

「・・・さア・・・」

「何やねん!」

私は、旭に告白をするつもり。でも、やっぱり振られるのは怖いし嫌だから

旭の好きな人を聞いてから望みがあれば告白してみようと思っていた。
る。

でも・・・旭には好きな人がみただから、もう望みは無いのかも。

・

『あつ！お前の好きな人わかった！！×××やる？？』

『違うし！』

『あつ・・・そう？』

旭は鈍感なのか気付いているのかわからないけど、なかなか好きな人を教えてくれない・・・

だから、告白を先にすることに決めた。振られる覚悟で・・・

私は親友の優希に旭に伝えてほしいと頼んだ。

ほんとは、自分で伝えたいんだけど、今そんな勇氣はでない。

『なアなア・・・亜夜が旭のこと好きらしいで？』

『ふーん・・・』

『旭の好きな人は誰なん？？』

『・・・ゆわん』

『あつそう』

『優希？聞いてきてくれた？』

『うん。教えてくれへんかった・・・』

『そっかア』

もう・・・振られちゃったのかな？

翌日、私のもとに旭の友達が来た。

そして、そいつが発した一言で私の人生が狂っちゃったんだ・・・

『旭が・・・亜夜と両思いかも・・・やって』

君を想った時間〜第一話〜（後書き）

最後まで読んでくれてありがとうございます！

最終話まで、応援よろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0952i/>

君を想った時間

2010年10月9日05時13分発行